

私の旅は終わらない

ロシア、ロンドン、パリ、ニューヨーク…
激動の時代、戦乱に揺れる国々。
運命の男。運命の愛。また会う日まで振り回かない。
かすかに耳に残る父の子守歌をさがして。
ただ、あなたに会いたくて。



THE MAN WHO CRIED

「バッファロー66」「スリーピー・ホロウ」 クリスティーナ・リッチ 「シヨラ」「シザー・ハンズ」 ジョニー・デップ 「エリザベス」「リブリー」 ケイト・ブランシェット 「オー・ブラザー!」「バートン・フィンク」 ジョン・タトゥーロ

耳に残るは君の歌声

「タンゴ・レッスン」「オルランド」
サリー・ホッター監督最新作

2000年第57回ヴェネチア国際映画祭コンペティション正式出品作品 / 2001年第14回東京国際映画祭・特別招待参加作品

監督・脚本・音楽プロデューサー：サリー・ホッター / クリスティーナ・リッチ、ジョニー・デップ、ケイト・ブランシェット、ジョン・タトゥーロ、ハリ・ディーン・スタンソン、クローディア・ランダー・デュエク、バヴロ・ペロン、オレグ・ヤンコフスキー
テーマ曲：ヒゼー「真に残るは君の歌声」(「真珠塔」より) / 挿入歌：フェルディ見よ、恋しい娘を」(「トロカドール」より)、フーチャー「星は来りぬ」(「トスカ」より)、バーセル「夕日の恋しき」(「ドイツをエアニス」より)
音楽監督：オスヴァルト・ゴリジョフ / ティノール・サルヴァトーレ・リチトラ / 音楽：タラフ・ハイドウ・クウス、クロリス・カルテット、イヴァ・ピドヴァ、フレッド・プリス、カティア&マリエル・ラベック / サウンドトラック：リニー・クラシカル / 原作本：角川書店BOOK PLUS刊 / 対訳本：DHC完全字幕シリーズ
撮影監督：サッシュ・ヴィエリニー / 美術：カルロス・コンティ / 衣装：リンディ・ヘミング / 編集：エルヴェ・ジュネイ / 編集：エルヴェ・ジュネイ / 製作：クリストファー・シェバート / 共同製作：シモーナ・ベンザケイン / 製作総指揮：テム・ビーヴァン&エリック・フェルナー
2000年イギリス=フランス合作 / ストーリー・ダイオ・キャナル=ユニヴァーサル・ピクチャーズ提供 / フォーキング・タイル・フィルムズ=アドヴァンチャー・ピクチャーズ作品 / 提供：アスミック・エース エンタテインメント、フジテレビ、角川書店 / 配給：アスミック・エース

お父さん あなたは今 どこにいますか

ロシア、ロンドン、パリ、ニューヨーク… 耳に、かすかに残る父の子守歌を探して、少女は海を越える。

明日をも知れぬ運命を嘆き燃え上がる愛と哀しみの一大ロマン。

泣きたい思いを歌声にかえて、私は前へ歩きつづける。もう一度、ぬくもりを感じたくて…。

激動の時代、戦乱に揺れる国々。生き別れた父を探し、歌声を自分の言葉として、海を越え、大地を渡る少女。旅の途中での出会い、そして別れ…美貌のダンサー、情熱のオペラ歌手、白馬のジプシー…生と死の間で民族の違いを越えた人々との交わりはどんな歌声を、どんな涙を映し出すのか。そして、はるか遠く父を探し求める少女の旅はどんな終幕を迎えるのか。

『タンゴ・レッスン』『オルランド』の女性監督サリー・ポッター待望の新作が、オールスター夢の競演により、絢爛豪華な音楽に溢れた愛と哀しみの一大ロマンとして、ここに誕生した。



霧と炎の中で生まれた歌声が、いつか父に届くその日まで。

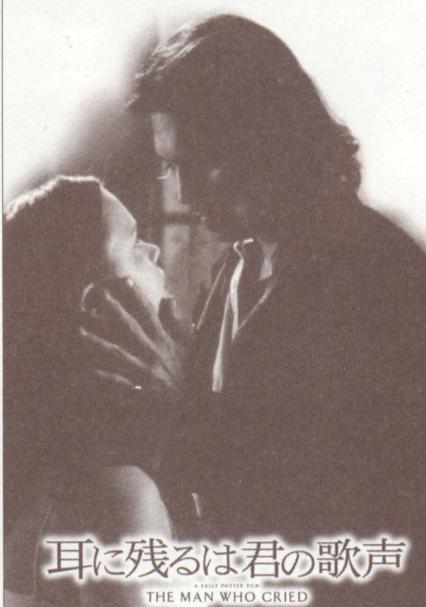
ロシアの深く美しい森とやさしい父の子守歌につつまれ育った少女は、迫害により無情にも父と引き離される。過酷な旅の末、名前を奪われ言葉も通じないロンドンで心に傷を負った少女は、「歌うこと」で孤独な日々から這い上がろうとする。

“歌”を自分の“声”として、その歌を力に旅を続ける少女がたどり着いたのは大戦前夜のパリ。そこは、ひときわ華やかで様々な人種が入り乱れていた。愛する人と肌の温もりを交わすことの喜びを教えてくれた白馬のジプシー。女であることのすべてを武器に、欲しいものを夢中で手に入れていく魅惑のダンサー。地位と名声をひけらかし、如何なる時も頂点であり続けようとする情熱のオペラ歌手。生と死の間で出逢う哀しみのアウトサイダーたちは、少女に東の間の飲びと共に、やがて深い憂いをもたらす。すべての運命が引き裂かれ、最後の愛を交わした夜、静かに涙を流しながら白馬のジプシーは言う、「君はアメリカに渡り、お父さんを見つけ、そして歌うんだ」と。

別れの朝、少女はひとり旅立った。父のいるアメリカ、自由の国アメリカを目指して…。

ロシア人ダンサーに扮するケイト・ブランシェットは、その美貌でスクリーン独しと華々しい色気を撒き散らす。美しいアリアを響かせるオペラ歌手役のジョン・タトゥーロは、テノールの威厳と同時に人間の弱さと醜さを演じ分ける。

また、少女の幼年期を演じるクローディア・ランダー＝デュークは、映画初出演ながらその愛らしい奇跡的な演技で、美しくも哀しいオープニングを飾る。そして『パリ、テキサス』のハリー・ディーン・スタントン、『ノスタルジア』『鏡』など巨匠タルコフスキー作品を支えた名優オレグ・ヤンコフスキーらが脇を固める。さらに『タンゴ・レッスン』のダンサー、パブロ・ベロンもゲスト出演し、情熱的なステップを披露する。



耳に残るは君の歌声
A SALLY POTTER FILM
THE MAN WHO CRIED

音楽との出会いからはじまり 音楽を通して語られる物語

監督のサリー・ポッターは、旅を続ける移民や少数民族たちの「声」になりたいと祈りにも似た思いで本作を完成させた。「音楽との出会い」によって生まれた本作への情熱的な意欲は、彼女を脚本、監督と同時に音楽プロデューサーへも駆り立て、多くのミュージシャンたちとのコラボレーションを実現させていった。

サリー・ポッターがテーマ曲に選んだのは、「カルメン」で御馴染みのピゼーの代表オペラ「真珠探り」の中からメイン楽曲「耳に残るは君の歌声」。他に、ヴェルディ、プッチーニ、パーセルらの作曲による名オペラの数々が全篇を彩り、その全てを新星テノール、若手実力No.1のサルヴァトーレ・リチートラが歌い上げる。

また、世界的に注目を集めているルーマニアン・ジプシーバンド“タラフ・ドゥ・ハイドゥークス”が監督たつての願いにより出演し、躍動的な演奏を披露。オペラの高貴な絢爛さとは対照的な、生への生々しい欲望と歓喜をダイレクトに伝える。

そして、時に激しく、時に優しい流麗な映像を生み出したのは撮影監督の重鎮サッチャ・ヴィエルニー。「去年マリエンバートで」や「昼顔」等の名作から、『コックと泥棒、その妻と愛人』等の一連のグリーンナウェイ作品など意欲的な活躍を見せていたが、残念ながら01年5月に他界、本作が遺作となった。マエストロが最後に描いた光と影を堪能したい。

「20世紀には泣きたいことが
たくさんあった」
——サリー・ポッター

愛憎渦巻く運命を彩る
艶やかなオールスターキャスト

ヒロインの少女を演じるのは、監督自身が世界各国の女優から選び抜いたクリスティーナ・リッチ。すべてを見つめる震える瞳が強烈な印象を残し、ここに彼女の代表作が生まれた。少女と心の傷を共有し、愛し合う白馬のジプシー役にはジョニー・デップ。少女との別れに見せる彼の涙は、どうにもならない無力の哀しみを表す。さらに、

2000年第57回ヴェネチア国際映画祭コンペティション正式出品作品/2001年第14回東京国際映画祭・特別招待参加作品

クリスティーナ・リッチ ジョニー・デップ ケイト・ブランシェット ジョン・タトゥーロ ハリー・ディーン・スタントン クローディア・ランダー＝デューク パブロ・ベロン オレグ・ヤンコフスキー

監督・脚本・音楽プロデューサー：サリー・ポッター/撮影監督：サッチャ・ヴィエルニー

テーマ曲：ピゼー「耳に残るは君の歌声」（「真珠探り」より）/挿入オペラ：ヴェルディ「見よ、恐ろしい炎を」（「トロヴァトーレ」より）、プッチーニ「星は光りぬ」（「トスカ」より）他

音楽監督：オスヴァルト・ゴリジョフ/テノール：サルヴァトーレ・リチートラ/音楽：タラフ・ドゥ・ハイドゥークス、クロノス・クアルテット、イヴァ・ピトヴァ、カティア&マリエル・ラベック

2000年英・仏合作/カラー/97分/ドルビーデジタル、DTS、SDDS/字幕：戸田康津子/サウンドトラック：ソニー・クラシカル/原作：角川書店BOOK PLUS刊/対訳本：DHC完全字幕シリーズ/提供：アスミック・エース エンタテインメント、フジテレビ、角川書店/配給：アスミック・エース



12月22日(土)
壮大なロマンが幕を開ける

梅田・HEPファイブ東南カド・シネマ横丁
OS劇場 C.A.P
06(631 1)2478

前売鑑賞券1,300円発売中!
【当日料金：一般1,800円の処】
劇場窓口のみ先着特典! (限定)
あなたの流した涙を永遠に下さ
アンティーク「涙壺」
